

## 失われたものの譬え 要約—神様の不思議な愛

ルカの福音書15章1-32節  
2013,6,5 HKJCF

### 概観

序)①譬えの背景②譬えの中心③ルカの  
関心→信仰義認の確認

- 1、人間
- 2、父なる神様
- 3、信仰
- 4、要約
- 5、適用

### I 人間

- 1、人間は神様の愛から遠く離れている  
→人間は失われた存在
- 2、自己正当化により自分の姿を見失う  
→人間は自分の事が一番分からない
- 3、主の十字架を通し父なる神様の愛を実感する時、人間は愛・いのち・輝きを回復  
→天父のもとへ帰る、父の愛を実感する

### II 父なる神様

- 1、神を父とする譬え 詩篇27:10
- 2、神を夫とする譬え ホセア3:1-5
- 3、神様のみ名:義・聖 アモス2:4-8  
→十字架の愛だけが対立から和解・統合  
「汝の敵を愛せよ」 マタイ5:44  
→私の内の弟息子と兄息子の統合  
→主を中心とした罪・義・救いの新定義  
ヨハネ16:8-13

### III 信仰

- 1、神様の存在を信じる ヘブル11:3  
神存在を無視した現代人の行き詰まり
- 2、神様が良い方だと信じる ヘブル11:6  
人生の意味・目的・価値・希望・愛の回復
- 3、神様の使命を受けて出発 ヘブル11:8  
アブラハムの様に約束の神の国を目指す  
→弟・兄も父との愛の関係から神の国へ

### IV 結論

譬えの結論は神様は人間の想像を超えた良い方ということ 良い神様、天の父なる神様を信じる時、私たちは欲と律法主義から解放され大胆に信仰の道を歩める

### V 適用

信仰とは神の愛中心、神の愛の価値観に生きること 自分の内の弟息子性、兄息子性を認め、神の愛により神の国へ進もう